

京都の伝統産業 Traditional Industries of Kyoto

京銘竹



平安時代から、柱、壁の下地、簾などの建材に使われ、京都では、庭園や茶室の門や垣、町家の駒寄、腰張など、建築文化に重要な役割を果たしてきた。白竹は建築用、茶華道具、美術工芸品に、胡麻竹は建築用、扇子立などの工芸品に、図面角竹は、飾り柱、椅子など風情ある家具に、亀甲竹は、趣味を追求する建築装飾、工芸品に用いられている。

平安時代 794-1185

制作：京都市

京都の伝統産業 Traditional Industries of Kyoto

京銘竹



平安時代から、柱、壁の下地、簾などの建材に使われ、京都では、庭園や茶室の門や垣、町家の駒寄、腰張など、建築文化に重要な役割を果たしてきた。白竹は建築用、茶華道具、美術工芸品に、胡麻竹は建築用、扇子立などの工芸品に、図面角竹は、飾り柱、椅子など風情ある家具に、亀甲竹は、趣味を追求する建築装飾、工芸品に用いられている。

平安時代 794-1185

制作：京都市